

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業	28年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業	延伸	維持	維持	連絡先	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	稲永ふ頭用地			事業期間	平成4~33年度
	意図(どういう状態にしたいか)	陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備します。				
概要	整備場所:名古屋港区(稲永ふ頭) 内容・規模:陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備し、モーダルシフト(トラックによる幹線貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること)を推進します。ふ頭用地7.1ha(埋め立て、地盤改良、舗装工、排水工等)等の整備 総事業費:41億円				根拠法令等	公有水面埋立法 港湾整備促進法 名古屋港港湾計画
事業着手時点の評価	ふ頭用地の整備を行うことにより、ふ頭機能の老朽化に対応するとともに、ヤード面積等(7.1ha)が確保され、在来貨物等取扱機能の向上を図ります。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
29年度の実施予定	複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルへの需要動向を見極めながら事業を実施するため、現時点ではふ頭用地整備を行う予定はありません。				関連シート	

2 DO(実施)

29年度に実施した内容・結果	事業進捗はありませんでした。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	合計(平成4年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	0	0	0	3,094,515	
人件費	千円	714	717	2,941	-	
合計	千円	714	717	2,941	3,094,515	

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%)	目標	79.8	79.8	79.8	79.8(累計)		事業進捗率は、全体工事費を100とした工事費の割合です。	
	実績	79.8	79.8	79.8				
(進行管理型)	事業進捗状況(29年度)			○順調・やや遅れ・遅れ				
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(29年度)							
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	これまでの工程は順調に進捗しております。事業費の2割程度を占める舗装工事等については、ふ頭用地需要の動向を見極めたのち、3ヶ年で整備を進めていく計画となっております。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	稲永ふ頭における在来貨物取扱機能の向上について、利用者ニーズを見定めながら、事業を進めていく必要があると考えております。						
有効性	○	ふ頭用地を整備し、在来貨物等の取扱機能を向上させることは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。						
効率性	○	ふ頭用地の需要動向を見極めているところであるため、成果の評価は対象としておりません。						
	○	ふ頭用地の需要動向を見極めながら、事業を実施しております。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	延伸	維持	維持	ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(33→34年度)
課題				
複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルとしてのふ頭用地需要を見極めながら、事業進捗を図っていく必要があります。				当該地は暫定的に港湾運送事業者がモータープールとして使用しておりますが、今後はふ頭用地としての需要動向を見極めながら必要な整備を推進していきます。